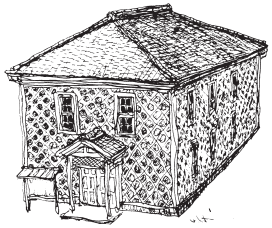
演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

◉常任理事　駒形哲哉（こまがたてつや）

皆さまとつながり続けるために

「2033年の創立175年を祝うための4年」――伊藤塾長は今期執行部の任期をこのように位置づけました。その執行部の一員として塾員・施設管理・調達会計（以上主管）、危機管理（共管）などを担当しています。

7年先に祝える状態にあるために、「社中協力」の維持・強化は必須です。福澤先生が「社中協力」の具体的形態として挙げられた「労力」、「金」（＝寄付）、「時間」、「注意」（心を寄せること）の四つは互いに関わっています。常任理事になって知ったのは寄付件数が減少していることです。これは財務問題にとどまらず、なにより心を寄せる度合いの低下などが深く関わるものと捉えると、何か策を講じなければなりません。

このような変化は、社会的環境や個人の意識の変化の表れでもあり、「社中協力」の維持・発展のためには、皆さまの義塾への報恩の気持ちに依拠するだけでなく、義塾とつながることが個人のメリットになる仕掛けも必要でしょう。その仕掛けとして可能性を検討しているのは、本誌325号で塾長が提起した「慶應アプリ」です。「万能プラットフォーム」として展開して「とりあえず慶應アプリを開くか」と思っていただけるようなものができればと思います。いつでもどこからでもアクセスできる「どこでもドア」で、ドアを開けばライフにもキャリアにも役立つ機能に出会えるというようなイメージを持っています。卒業時点でのアプリ登録を通じて、「塾生は卒業させても、塾員は卒業させない」ことを実現したいと思います。

このような、前向きに展望を描きたくなる業務のほかに、起こってほしくない事態に備える担当業務もあります。それは防災です。小学生の娘が幼児のときからなぜか防災冊子を「愛読」し、一人で防災意識を高めていましたので、防災担当には使命も感じます。前任の岡田常任理事が始めた図上訓練を定例化するなど、塾生の安全を確保できるよう努めています。

どのようなときにも塾生・塾員の皆さまと共に歩めるよう尽力しますので、「社中協力」にお力添えのほどお願いいたします。